

第 18 回精華町環境推進委員会 会議録

会議の名称		第 18 回 精華町環境推進委員会
開催日時		平成 31 年（2019 年）2 月 20 日(水) 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所		精華町役場 2 階 201 会議室
出席者	メンバー	上甫木委員（委員長）、中村委員（副委員長）、寺本委員、井澤委員、畑中委員、前川委員、牟田委員、山本委員
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長 精華町 健康福祉環境部 環境推進課 澤田課長、藤原係長、奥村主事
欠席者		曾根委員
議 題		議事 ① 環境基本計画の年次報告（精華町の環境・平成 29 年度分）（案）について ② その他 ・平成 31 年度の精華町環境推進委員会開催等のスケジュールについて ・その他
資 料		資 料① 精華町の環境（平成 29 年度分）（案） 資 料② 平成 31 年度スケジュール（予定） 資 料③ 第 18 回精華町環境推進委員会名簿 参考資料① 第 17 回精華町環境推進委員会議事録 参考資料② 精華町の環境（平成 28 年度分）（平成 30 年 3 月発行）
傍 聴 者		なし

1. 開会

・健康福祉環境部長あいさつ

2. 議事

① 環境基本計画の年次報告（精華町の環境・平成 29 年度分）（案）について

上甫木委員長：それでは、次第に沿って進めていきたいと思えます。事務局からの説明を受けたいと思えます。

事務局：資料①-1、資料①-2について説明させていただきます。

○資料説明（事務局） 資料①-1、資料①-2について説明

上甫木委員長：資料①-1の p.9 の「評価」をまとめた内容について、修正や加筆等はありませんでしょうか。また、何かご意見やご質問はございますか。例えば、食品ロスの各団体等との連携について、井澤委員いかがでしょうか。

井澤委員：良いと思う。しいて言えば、実際にされているために「本町内の横断的な組織を活用し、幅広い団体との連携を図った」と記載していただければ、なお良いと思う。

上甫木委員長：食品ロスについては、前回の委員会で子ども食堂さんのお話も出ていましたが、取り組みとしてはいかがでしょうか。

事務局：先日実施した2月13日の精華環境プラットホームに子ども食堂さんが参加され、取り組みを紹介していただくとともに、プラットホームの参加者のみなさんと繋がるきっかけとなり、有意義なものになったと思う。当委員会のメンバーも当日は何名かご参加いただいていたので、参加された委員からもご紹介いただければと思う。

山本委員：先日のプラットホームに参加させていただき、直接お話もさせていただいた。実際に食べる事に困っておられる家庭があることなどについても話しておられ、農家の知り合いと繋げたいと思っている。

事務局：ご紹介いただいたとおり、貧困世帯が現実にあることについてもお話しされていた。現在も既に旧村地域と繋がりを持っていて、野菜をいただいたりすることもある様子。横の繋がりや顔の見える関係が大切であることを、改めて感じた。

寺本委員：正式な機関を通すと、賞味期限や消費期限の関係で難しい面がある。顔の見える関係だと臨機応変な対応が可能なのではないかとのお話も出ていた。先程から話の出ている顔の見える関係づくりが大切であると感じた。また、賞味期

限に左右されず、自分の五感を使った確認の大切さや教育の重要性について話し合われた。

上甫木委員長：顔の見える関係や横のつながりを広げることは、今後の取り組みを進めるためにも非常に大切なキーワードとなる。

井澤委員：農家をしているが、先日、家でも大根を収穫し、100本ほどを納屋で保管している。収穫してからあまり時間が経過すると食べごろを過ぎてしまうので、そのような情報があれば活かすことも可能。しかし、そのような情報が参加した人にしか伝わらない点が課題である。プラットフォームに参加していない農家もたくさんあるので、今後は、点と点をもう少し広げることが大切。それを、どうやって仕組みにしていけるのかを考えなければいけない。

畑中委員：p.9の評価の冒頭に現在の食品ロスに関する取り組みが「良い取り組み」であることを書いた方が良い。評価なので素晴らしいという、良い面をしっかりと書いてはどうか。

上甫木委員長：是非、素晴らしいという評価についても記載していただきたい。

前川委員：食品ロスについては、先日ラジオ番組で京都府の取り組みの紹介を行っていた。実際に京都府の取り組みはどうか。

事務局：京都府は部署ごとの取り組みが、それぞれ表に出ているように感じられる。精華町では横断的な取り組みとして、食育の中で、食品ロスについて取り組みを進めている。

牟田委員：木津川市のリサイクルセンターに行くと、センターの中に不要となった衣類などを持ち寄る場所がある。そこへ行けば必要な人は持って帰れるような仕組みである。せっかく作ったものが無駄になるのであれば、場所や曜日設定などして広報すれば、持ち込む人と必要な人に横断的な提供ができる場ができ、対策の一つになるのではないか。

事務局：木津川市のリサイクルセンターは閉鎖したと聞いている。そういう仕組みも一つであるが、受け取る側の視点では、食品の安全安心の確保は必要と考える。

上甫木委員長：安心して繋がっていることは大切。そのような関係が構築されると良い。

前川委員：食品を使う側から考えると、アレルギーなどの問題もあるので、農薬の使用状況などは気になる点である。

中村副委員長：食品ロスというのは難しい。農家をしているが、生産した野菜の一部がロスになるのは、やむをえない面もある。テレビで0円食堂などが紹介されているが、このような取り組みを野菜のロスを活かして実施されたらインパクトがあるのではないか。

上甫木委員長：先日、規格外野菜について卒業論文のテーマにした学生がいた。彼女は外観の違いで売り上げに差がでるのか、どの程度であれば消費者は買うのか、実際にスーパーの協力をいただき、調査した。調査対象はトマトとレタス。結論的には形が悪かったり、傷が多少あっても消費者は買うが、萎れていると買

われないなどの結果報告があった。見た目ですら少し傷があっても、品質に問題がなさそうな場合や、虫に食われていても逆に農薬の使用が少ないと考えた場合、消費者は買う。安全安心に関する消費者への情報提供は大切である。

事務局：賞味期限の期限についての捉え方だけでも様々である。食品ロスを減らすためには、それぞれの方のモチベーションも必要なので、学習の機会の提供が必要なのではないかと感じている。

中村委員：生産する上では、ロスはずいぶん出てくる。ロスを有効的に活用する方法が望まれる。

井澤委員：土から生まれたものは、やはり土に返すのが良いと思う。家の場合は畑に鋤き込む。精華町生ごみ堆肥化推進協議会の取り組みも良いと思うが、出来た堆肥を使う場所が無い。町で力を入れているいちご生産の取り組みなどで使えないか。

上甫木委員長：安心して繋がっていける場づくりが求められているように感じる。

環境日記の取り組みの全国での評価については年次報告書には掲載しないのか。

事務局：全国での表彰は、町での取り組みではないので、そこに特化して記載しにくい面があるため、町の取り組みとあわせて記載することとなり、今年度の表彰内容は来年度の報告に記載することとなる。

前川委員：全国での表彰とはどのようなものなのか。

事務局：環境日記は、まず、精華町版コンテストとして、町が独自で審査を行っている。

その後、全国版コンテストに子どもたちの日記を応募し、審査がある。全国でおおよそ 130 校、5 千人程度の応募がある中で、精華町の小学校が東京都知事賞などの学校表彰を受けた。また、多くの子どもが個人賞を受賞している。

事務局：今年度、全国版の環境日記の表彰は 20 回記念大会であった。第 1 回の大賞の受賞者が、今、どのように成長しているのか、今年度の全国での表彰式に来られて紹介されていた。既に大人の方は企業の研究職、学生は環境に関わる研究をされている方も来られていた。取り組みを継続されている効果が出ているのかなと感じた。精華町でも環境日記に取り組んだ子どもたちの成長が楽しみである。

事務局：今回は東光小学校、山田荘小学校の生徒の応募と表彰であったが、町全体では 5 つの小学校があるので、残りの 3 つの小学校での取り組みに向けても働きかけを行っている。

上甫木委員長：本日、みなさんから出していただいた意見を受けて、町と調整し、修正させていただくということでしょうか。

② その他

上甫木委員長：それでは引き続きまして、その他として、平成 31 年度の委員会の開催スケジュールについて説明をお願いします。

○資料説明（事務局） 資料②について説明

上甫木委員長：スケジュールについて、何かご質問等ございませんか。

事務局：毎年、当委員会において年次報告書をまとめていただいているのでそれらを総括するとともに、いろいろな団体からもご意見をいただきたいと考えている。それらの取りまとめ結果などについて環境推進委員会に報告させていただき、みなさんのご意見をいただきたい。また、現在の計画は指標が無いので、その辺りが課題であると事務局としては感じている。

上甫木委員長：現在の計画づくりに関わっていたが、精華町では初めての環境基本計画であったので、当時は無理に指標を設定することが必ずしも妥当とは言えないという議論もあり、現在の形になっている。次の計画策定の際にはこれまでの実績や成果も踏まえた上で、そのあたりについても議論を進めてはどうか。環境の分野は幅広いので、庁内の連携を深めていく必要がある。精華町は食品ロスなど大変進んでいる面もあり、住民さんの動きが活発なのが特徴である。そのあたりについても、新しい計画づくりの際には反映できると良い。また、庁内や事業所、団体などにヒアリングなどでしっかりとご意見を聞く必要があるのでは無いか。

上甫木委員長：その他、ご意見・ご質問などはありませんか。

寺本委員：環境日記の話に戻るが、4、5頁に教育の分野の取り組みを入れてはどうか。

上甫木委員長：町が小学校に環境日記の話をしに行く時は、教育委員会の方も同行されるのか。

事務局：教育委員会は同席していない。しかし、教育の問題は大変重要で、小さい時から取り組みをしていくことは大切であると認識している。健康分野の方も、広報誌に毎月見開きで取り組みを紹介しているが、現在、紙面を見てもらえるきっかけを作るために4コマ漫画の掲載などの工夫を行い、ウォーキングイベント等への参加を呼びかけている。

事務局：小学生や幼児など小さい時から意識付けについては今後も引き続き推進していきたい。なお、現在の取り組みは、平成26年度版の年次報告書で、子どもを対象とした意識付けをするようにと、本委員会からご意見を受けて推進しているところである。

上甫木委員長：精華町版の環境日記を小学校で活用できることは、自分の住んでいるまちの状況であり、身近に感じられ大切である。

事務局：その他、事業報告をさせていただく。食品ロスを減らすために、宴会の最初の30分、終わりの10分は席に座って食べましょうという「3010運動」のPRツールを作成した。いくつかの事業所にも紹介させていただいている。また、地球温暖化対策にかかる冊子については、温室効果ガスの削減のため省エネなどに

取り組むことで「これだけお得になりますよ」という視点から紹介させていただいている。いずれも町のホームページでみなさんに見ていただけるようになっている。

前川委員：事業所については 28 日のまちづくり協議会の集まりの中でも紹介させていただく。

事務局：京都府立大学との連携事業を平成 29 年度から 3 か年で実施している。来年度の委員会では、連携の結果を委員会の方に報告させていただきたい。

事務局：次回の委員会は、現時点では 2019 年 8 月頃の開催を予定いたしておりますが、別途、日程調整させていただきたい。引き続き、よろしくお願いいたします。

3. 閉会

事務局：本日はお忙しい中、長時間に渡り活発なご審議をいただき誠にありがとうございました。

(以上)